

研究主題 目的に応じ、自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力を身に付ける国語科学習指導の在り方
— 小学校第6学年「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、わたしはこう見る」における文章に絵を結び付けて読んだり書いたりする活動を通して —

銚田市立銚田小学校 教諭 井上 秀次

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）（以下「解説」という。）では、第5学年及び第6学年「C読むこと」の目標を受け、指導事項ウに「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」と示されている。説明的な文章には、筆者の主張を補足するために文章の内容に関連した図表やグラフ、写真などの様々な資料（以下「資料」という。）が用いられている。そのため、文章とともに資料を読み取っていくことは、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む能力を身に付けるために必要であると考え。また、「『B書くこと』(1)の『ウ事実と感想、意見などとの関係をとらえたり、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。』と関連付けて指導すると効果的である。」と示されており「読むこと」と「書くこと」を関連付けた単元構成も必要であると考え。

説明的な文章教材を読み、文章に資料を結び付けて読むことについて、実態調査を行った。（平成25年4月25日実施、第6学年1組28人、全3問）文章に資料を結び付けて読むことが3問全てできた児童は4人、1問以下の児童は18人であった。併せて、目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くことについて実態調査を行った。（平成25年4月25日実施、第6学年1組28人、全3問）3問全てできた児童は6人、1問以下の児童は13人であった。この結果から本学級の児童は、資料が筆者の主張を補足する理由や根拠として文章のどの部分に結び付くのか的確に押さえられず、そのため、自分の考えを明確にすることができていないと言える。これは、これまでの説明的な文章の学習において、文章に筆者の主張を補足する資料を結び付けて読んだり書いたりするための手立てが不足していたことに起因していると考え。

そこで本研究では、小学校第6学年「『鳥獣戯画』を読む」と「この絵、わたしはこう見る」を複合させた単元構成にし、文章に絵を結び付けて読んだり書いたりする活動を展開する。「『鳥獣戯画』を読む」は、国宝の絵巻物『鳥獣人物戯画（以下『鳥獣戯画』という。）』の一場面を取り上げ、絵に対する解説や解釈、評価を述べながら主張に向かうという特徴がある。そのため、筆者の主張と理由や根拠を結び付けることは、文章に絵を結び付けることになる。また、筆者の主張が明確に伝わるために資料が用いられているのであるから、その筆者の意図や思考をとらえることは、自分の考えを明確にしていくことに

なると考える。「この絵，わたしはこう見る」は，絵に対する自分なりの感じ方や考え方を明確にしながら文章にまとめる活動が中心になるため，「『鳥獣戯画』を読む」の学習と複合させることで，それぞれのねらいを一層効果的に実現できるようになると考える。このように，筆者の主張とその理由や根拠の関係から，文章に絵を結び付け，絵を用いた筆者の意図や思考をとらえれば，目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力が身に付くと考え，本主題を設定した。

2 研究のねらい

小学校第6学年「『鳥獣戯画』を読む」「この絵，わたしはこう見る」における文章に絵を結び付けて読んだり書いたりする活動を通して，目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力を身に付ける国語科学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

小学校第6学年「『鳥獣戯画』を読む」「この絵，わたしはこう見る」において，文章に絵を結び付けて読んだり書いたりする活動を行えば，筆者の主張とその理由や根拠の関係から，絵を用いた意図や絵に対する思考をとらえるようになり，目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力が身に付くであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力について

解説では，「C読むこと」の指導事項ウについて，「文章の内容を的確に押さえるためには，文章に書かれている話題，理由や根拠となっている内容，構成の仕方や巧みな叙述などについて注意することが大切である。

(中略)筆者が，どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか，また，どのような感想や意見，判断や主張などを行い，自分の考えを論証したり読み手を説得したりしようとするのかなどについて，筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し，自分の考えを明確にしていくことである。」と示されている。以上のことから，目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読む能力とは，筆者の意図や思考を捉えながら，筆者の主張がどのような理由や根拠によって書かれているのかに注意して叙述に即して文章を読む能力であると考え。また，「B書くこと」の指導事項イについて，「『自分の考えを明確に表現する』ための構成とは，自分が考えていることを明確にすることだけではなく，相手が書き手の考えを明確に理解できるようにすることであることにも留意しなければならない。(中略)書き出しに読み手の関心を喚起する事例を配置したり，

概説や要約を活用して読み手が考えを理解しやすいように工夫したり，冒頭部や終結部の書き方を工夫したりすることができるような学習を適切に位置付けることも必要である。」と示されている。以上のことから，目的に応じ，自分の考えを明確にしながら書く能力とは，自分の考えが読み手に伝わるように，表現や構成を工夫して文章を書く能力であると考え。本研究では，これら二つの能力が関連し合いながら身に付けられることを目指した。

イ 目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力が身に付いた児童の姿

アの考えを基に，目指す児童の姿を表1のようにとらえた。目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力が身に付いた児童は，文章に絵を的確に結び付けながら，筆者のものの見方や考え方を読み取ったり，それを生かして自分の考えを文章に書き表したりすることができる。と考える。

表1 目的に応じ，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりする能力が身に付いた児童の姿

- ① 文章に絵を結び付け，表現の工夫に着目しながら筆者のものの見方や考え方を読み取り，自分のものの見方や考え方を広げることができる。
- ② 絵から読み取ったことや感じたことが読み手に伝わるように，表現や構成を工夫して書くことができる。

(2) 主題に迫るために

ア 児童観

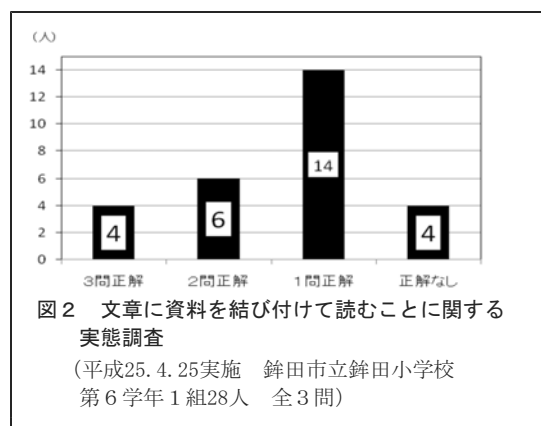
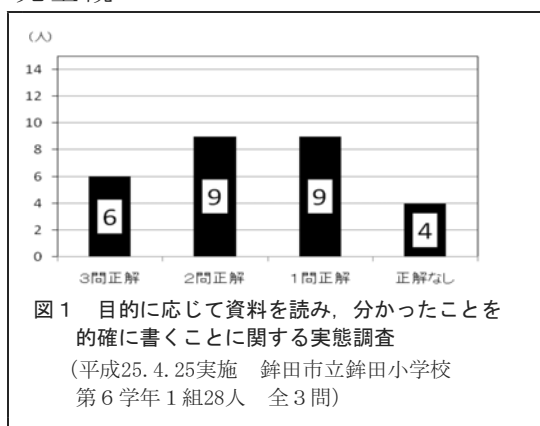


図1は，目的に応じて資料を読み，分かったことを的確に書くことができるか，実態調査を行った結果である。3問全て正解した児童は6人，正解が1問以下の児童は13人であった。また，図2は，説明的な文章教材を読み，文章に，その内容に関する資料を結び付けて読むことができるか，実態調査を行った結果である。3問全て正解した児童は4人，正解が1問以下の児童は18人であった。児童は，「動いて，考えて，また動く」（光村図書4年）や「天気を予想する」（光村図書5年）の学習において，文章に資料を結び付けて読むという活動を経験している。しかし，これら二つの実態調査の結果から，文章に資料を結び付けて読んだり書いたりすることができなかった児童の多くは，資料にどのようなことが書かれているのか読み取れず，文章に資料を結び付けるための手掛かりとなる，文章中のキーワードやキーセンテンスがとらえられなかったと言える。このような実態から，「読むこと」と「書くこと」を複合させた単元を貫く言語活動を設定し，筆者の意図をと

らえ、文章に資料を結び付けて読んだり書いたりするための手立てが必要である
と考える。

イ 教材観

本教材は、12世紀に生み出された国宝の絵巻物『鳥獣戯画』の一場面を取り
上げ、絵に対する解説や解釈、評価を述べた説明的な文章である。筆者である
高畑勲氏は、テレビの実況中継のような臨場感あふれる表現や、漫画やアニメ
との比較、書き出しや文末表現など、読み手を意識し、ものの見方や考え方を
分かりやすく伝える工夫をしている。一方で、「蛙が兎を投げ飛ばしたように
動いて見えただろう。」や、「ある一瞬をとらえているのではなく、次々と時間
が流れていることがわかるだろう。」などの表現に見られるように、文章だけを
読んだのでは本教材で述べられていることを十分に理解することができず、そ
のため、文章に絵を結び付けて読むことが必要になる。筆者のものの見方や考
え方をとらえ、さらに自分のものの見方を広げるためには、絵に対する自分な
りの解釈や評価もしなければならない。そのような点からも、本教材は、「絵
を読む力」と「文章に絵を結び付けて読む力」を育成する上で適した教材であ
ると考える。

「この絵、わたしはこう見る」は、芸術的絵画に触発される自分なりの感じ
方やものの見方を言葉で記述する活動が中心になる「書くこと」の教材である。
教科書の中では、古典的な屏風絵と現代の抽象的絵画の二枚の絵画が提示され
ているが、これらを『鳥獣戯画』のような連続式絵巻に置き換え、「『鳥獣戯
画』を読む」と複合させた単元構成にすることで、「読むこと」で付けた力を
「書くこと」で生かし、それぞれのねらいを一層効果的に実現できるようにな
ると考える。

ウ 指導観

(ア) 筆者のものの見方や考え方について、文章に絵を結び付けながら読み取り、
自分のものの見方や考え方を広げる活動

まず、教材との出会わせ方を工夫する。はじめから教材文全体を見せず、
文章と絵を分けながら段階的に提示していく。これにより、児童は「どんな
ことが書かれた文章なのだろう。」「筆者は何を主張したいのだろう。」と、興
味・関心をもちながら、主体的に文章に向かうようになると考える。また、
題名から内容や筆者の主張を予想させる「題名読み」を取り入れることによ
り、児童に、「『絵を読む』とはどういうことだろう。」という、単元を貫く
「核となる問い」をとらえさせるようにする。これは、「絵巻物から読み取
ったこと、感じたことを伝える文章を書こう。」という単元を貫く言語活動を
充実させる上で、常に意識させなければならない重要な「問い」として考
える。

次に、筆者が「絵全体の中で、どの部分を取り上げ、何に着目しているの
か」「どのような言葉で解説や解釈、評価をしているのか」「絵に対する見
方や考え方を分かりやすく伝えるために、表現や構成をどのように工夫して
いるのか」という三つの観点から教材を読む。その際、児童には絵と文章を

別々に提示し，文章に絵を結び付けて読む活動を設定する。『鳥獣戯画』の絵を「読む」ことを児童にも経験させることで，筆者のものの見方や考え方を，自身のそれと比較し，共通点や相違点を話し合わせるようにする。

さらに，それまでの読みを確かなものにするために，後に示す結論部分（第9段落）において筆者はどのようなことを主張するのか予想させる。題名の意味や，これまで述べられてきた内容を根拠にしながら，児童は自分の言葉で筆者の主張を予想し，個人やグループでまとめていく。この手立てにより，筆者の主張の中心（要旨）をとらえるために，児童が後に示される結論部分を主体的に読み，それに対する自分の考えをもつようになると考える。

- (4) 絵から読み取ったことや感じたことが読み手に伝わるように，読みの学習で学んだ表現や構成の工夫を生かして文章を書く活動

「読むこと」の学習の後，『鳥獣戯画』のような連続式絵巻を題材に，そこから読み取ったことや感じたことを友達に伝えるための文章を書く活動を位置付ける。ここでは，『鳥獣戯画 甲・乙・丙・丁巻』『信貴山縁起絵巻 飛倉の巻』『伴大納言絵詞 中巻（子どもの喧嘩）』を見て気に入った場面を一つ選択し，さらに，書く文章の種類を「説明文」「実況中継文」「物語文」の中から選択する。この手立てにより，児童は，「読むこと」の学習で身に付けた力を生かしながら活動に取り組むようになると考える。さらに，書いた文章を友達同士で読み合い，助言し合うことで，ものの見方や表現方法を広げることができると考える。

(3) 授業実践

ア 単元の指導計画

- (ア) 単元名 絵巻物から読み取ったこと，感じたことを伝える文章を書こう
「『鳥獣戯画』を読む」「この絵，わたしはこう見る」

(イ) 目標

- 絵や絵巻物に興味をもち，進んで教材文を読もうとしたり，絵から読み取ったことや感じたことを伝えようとしていたりしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 絵から読み取ったことや感じたことが読み手に伝わるように，表現や構成を工夫して文章を書くことができる。
(書くこと)
- 筆者のものの見方や考え方について，文章に絵を的確に結び付け，表現の工夫に着目しながら読み取り，自分のものの見方を広げることができる。
(読むこと)
- 文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み，語句と語句の関係を理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

- (ウ) 指導計画（10時間扱い）及び評価規準

過程	時	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">書き出しの文章と題名を読んで，内容や筆者の主張を予想しよう。</div> 1 「『鳥獣戯画』を読む」の書き出しの文章（第1段落）のみを読み，想像したことを話し合う。 2 題名の「読む」という言葉から，筆者の主張を予想する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心をもちながら主体的に教材に向き合うようにするために，教科書は用いず，文章と絵を分けながら段階的に提示する。 ・題名を「『鳥獣戯画』を見る」にした場合と比較することで，筆者がなぜ「読む」を用いたのか，「絵を読む」とはどういうことか，単元を貫く課題意識としてもたせる。

つ か む	3	書き出しの文章に対応する絵を選ぶ。 4 単元の学習の見通しをもつ。 絵巻物から読み取ったこと、感じたことを伝える文章を書こう。	・単元を貫く言語活動を設定し、文章に絵を結び付けながら読む目的をもたせる。 ③ 書き出しの文章と題名を読み、内容や筆者の主張の予想し、自分の言葉でまとめている。 (発表・ノート)
	2	文章全体を序論・本論・結論に分け、本論を四つの意味段落に分けよう。 1 書き出しの特徴や文章と絵の関係を手掛かりに、文章全体を序論・本論・結論に分ける。 2 本論を四つの意味段落に分け、小見出しを付ける。 3 文章構成図を書く。	・提示された三つの絵から読み取れることを言葉で表すことで、文章と絵との関連に着目できるようにする。 ・小見出しの結びの言葉を「鳥獣戯画」などの名詞にすることで、そこに結び付くキーワードに着目できるようにする。 ③ 文章に絵を結び付け、段落同士の関係を押さえながら文章構成図を書いている。 (発表・ノート)
深 め る	3 授 業 1	筆者は絵巻物の絵のどこに着目し、どのようなことを感じたり考えたりしたのだろうか。 1 第1段落から第6段落までの文章に「かわず掛け」と「投げ飛ばされる兎」の絵を結び付けながら読み、筆者が着目した事実と、それに対する解釈や評価が表れている表現に線を引く。 2 絵に対する筆者の感じ方や評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。 3 筆者の感じ方や評価に対する自分の考えや感想をグループで交流する。	・文章に絵を結び付けながらとらえさせることにより、筆者が絵のどのような事実を根拠として解釈や評価しているのかを考えやすくする。 ・二枚の絵をつなげたり、絵巻物のレプリカを右から左へと巻きながら見たりする活動を取り入れることで、「アニメの祖」という筆者の評価を実感的にとらえられるようにする。 ・筆者の感じ方や評価について自分と比較しながら考え、グループで交流することにより、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ③ 筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価しているか、文章に絵を結び付けながら読み取っている。(発表・ノート)
	4	筆者は「絵巻の絵」としての『鳥獣戯画』をどう評価しているのだろうか。 1 第7段落から第8段落までの文章に、時間の連続性のある「かわず掛けから兎を投げ飛ばす蛙」の絵を結び付けながら読み、筆者が着目した事実とそれに対する解釈や評価が表れている表現に線を引く。 2 絵に対する筆者の感じ方や評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。 3 筆者の感じ方や評価に対する自分の考えや感想をグループで交流する。	・兎と蛙の会話を絵に書き込み、右から左へと読んでいくことで、「時間が流れている」という筆者の考えを実感的にとらえられるようにする。 ・「三匹の応援蛙」がどのような会話をしているのか書き込むことで、自分なりの考えをもてるようにする。 ・筆者の感じ方や評価について自分と比較しながら考え、グループで交流することにより、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ③ 筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価しているかについて、文章に絵を結び付けながら読み取っている。 (発表・ノート)
	5	筆者は、自分の見方を読者に伝えるために、どのような表現や構成の工夫をしているのだろうか。 1 第8段落までを読み、四つの視点から表現や構成の工夫をまとめる。 ①書き出し ②文末 ③絵の示し方(順) ④たとえ 2 ノートにまとめたことをもとに、表現や構成の工夫をグループや学級全体で話し合う。 3 話し合っって新たに気付いたことや考えたことをノートにまとめる。	・児童の課題意識を高めるために、表現や構成の工夫に着目するための四つの観点をもたせる。 ・書き出しや文末については、別の表現に置き換えてみることで、それぞれの効果や筆者の意図について考えられるようにする。 ・筆者が「筆運び」と「筆さばき」のように、似た表現を用いていることについて問うことで、語句と語句との関係にも目を向けさせるようにする。 ③ 表現や構成の工夫について、その効果や筆者の意図を考えている。(発表・ノート)
ま と め る	6	結論の部分で、筆者はどのようなことを主張するのだろうか。 1 題名の意味や、8段落までに読み取った内容を根拠にしながら、結論部分(第9段落)における筆者の主張を予想する。 ・「日本文化」は素晴らしい。(評論) ・「絵の力」はとてつもない。(評論) ・『鳥獣戯画』を大切に守り、未来に残そう。(読者のメッセージ) 2 筆者が「人類の宝」と評した根拠について話し合い、要旨をまとめる。 3 筆者が題名で「読む」という言葉	・第1時でまとめた、「絵を読む」ことに対する自分の最初の考えをノートの記述から振り返ることで、自分の考えの広がりや深まりを意識できるようにする。 ・筆者の主張の予想が自分の言葉でまとめられない児童には、8段落までに述べられてきた内容と関連させ、結論部分の特徴である「終わりのまとめ」「問いの答え」「読者へのメッセージ」の中から選択させるようにする。 ・最後の一文の「だから」に着目させることで、「人類の宝」と評する根拠となる直前の二文を使って要旨をまとめられるようにする。 ③ 結論部分で筆者が主張することを自分の言葉

	を使ったことに対する自分の考えをまとめる。	でまとめ、要旨をとらえている。 (発表・ノート)
広 げ る	7 <p>絵や絵巻物を読んで、何が、どのように描かれているのか、自分はどんなことを感じたのかまとめよう。</p> <p>1 提示された絵巻物から読み取ったことや感じたことを自由に話し合う。 ・『鳥獣戯画 甲・乙・丙・丁巻』 ・『信貴山縁起絵巻 飛倉の巻』 ・『伴大納言絵詞 中巻 (子どもの頃)』</p> <p>2 選んだ絵巻物に対して「どうして～だろう」と問いを立て、自問自答する形で、絵から読み取ったことや感じたことなどをノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心を高めながら活動に取り組めるよう、絵を拡大して提示したり、絵巻物のレプリカを用意したりする。 ・『鳥獣戯画』を読むの学習で使用した絵も併せて掲示することで、絵巻物を「読む」際の観点を生かせるようにする。 ・「問い」の立て方が分からなかったり、「答え」がうまく言葉で表せないでいる児童には、グループの友達や教師がその児童と対話することで、思っていることや考えを引き出すようにする。 ⑧ 絵や絵巻物に興味をもち、自分なりに問いを立て、情報を読み取ろうとしている。(ノート)
	8 <p>自分の見方を伝えるための効果的な表現の工夫を考えよう。</p> <p>1 『鳥獣戯画』を読むから、自分が文章を書く際に参考にしたい表現を抜き出し、ワークシートにまとめる。</p> <p>2 教科書P144.145の「読み取ったことや感じたことを表す言葉」「見る場所や見る方法を表す言葉」を読み、これらの表現の良さについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に選んだ絵巻物や、書こうとする文章の種類(説明文・実況中継文・物語文)について確認させることで、「『鳥獣戯画』を読む」のどの表現が参考になりそうか見通しをもたせる。 ・第5時の学習で押さえた、表現の工夫に関する四つの観点(書き出し・文末・絵の示し方・たとえ)について確認する。 ・参考にしてみたいと思った理由についてもワークシートに記入させる。 ⑧ 自分の見方を伝えるための効果的な表現の工夫をまとめている。(ワークシート)
	9 <p>絵から読み取ったことや感じたことが伝わるように、表現を工夫しながら「『〇〇〇』を読む」を書こう。</p> <p>1 「読み取ったことや感じたことを表す表現」「見る場所や見る方法を表す表現」などを取り入れて文章を書く。</p> <p>2 書き上がった文章を読み直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て分かることと自分の感想、考えを区別して書くよう助言する。 ・なかなか書き出せない児童には、「書き出しの例」を参考にしよう助言する。 ⑧ 表現の工夫を考えながら、文章の中で「読み取ったことや感じたことを表す言葉」や「見る場所や見る方法を表す言葉」を使って書いている。(文章作品)
	10 授 業 2 <p>「『〇〇〇』を読む」を読み合って、絵の見方や文章表現のよさを伝え合おう。</p> <p>1 同じ絵巻物を題材にして文章を書いた友達同士でグループを作り、読んだ感想を伝え合う。</p> <p>2 友達の文章と自分の文章とを比較し、絵巻物の見方の相違点や共通点、文章の工夫について感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を考えながら文章を読み合わせるよう、同じ絵や絵巻物を題材にした児童同士でグループを構成する。 ・絵の見方や感じ方と、文章表現のよさという二つの観点から読み合うことを意識させるために、感想を書く付箋紙を2種類用意する。 ⑧ 「『〇〇〇』を読む」を読み合い、絵の見方のよさや表現の仕方に着目して助言し合うことで、もの見方や表現方法を広げようとしている。(文章作品、付箋紙)

「核となる問い」

「絵を読む」とはどういうことだろうか?

イ 本時の学習

(ア) 授業1 (深める・第3時)

学 習 活 動 ・ 内 容	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>筆者は絵巻物の絵のどこに着目し、どのようなことを感じたり考えたりしたのだろうか。</p> <p>2 第1段落から第6段落までの文章に、「かわげ掛け」と「投げ飛ばされる兎」の絵を結び付けながら読み、筆者が着目した事実と、それに対する解釈や評価が表れている表現に線を引き、自分の考えや感想をまとめる。</p> <p>・絵全体の中で、どの部分を取り上げているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方が具体的に分かるように、まず第1段落を例に、拡大して掲示した文章と絵を使って全体でやってみる。 ・文章と絵との対応関係が明確になるように、文章には赤線を引き、対応する絵は赤線で囲み、それらを線で結ぶよう指示する。 ・線の色分けをすることで、絵についての事実とそれをどう解釈したり評価したりしているのかの関係を押さえられるようにする。

<p>(どの兎か、蛙の体のどこか など) →文章に赤線を引き、絵は赤線で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた対象の、何に着目しているか。 (形、大きさ、色、表情、格好、動き など) →(1)で線を引いた箇所の脇に書き込む。 ・どのように感じたり考えたりしているのか。 →解釈や評価が表れている表現に青線を引く。 <p>3 筆者の評価に対する考えや感想を全体で交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、「気品」や「躍動」という言葉は全く思い浮かばなかったの、筆者の感じ方はすごいと思った。 ・なぜ「漫画の祖」とよばれているのか、絵を使った筆者の説明を読んで納得した。 </div> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間みたいに遊んでいる。」とは思わなかったの、筆者の見方や考え方がすごいと思った。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・二枚の絵をつなげたり、絵巻物のレプリカを右から左へと巻きながら見たりする活動を取り入れることで、「アニメの祖」という筆者の評価を実感できるようにする。 ・グループで、線を引いた表現や絵との対応について確認し合い、意見が分かれたところや疑問点があれば全体での話し合いで交流するよう伝える。 ・筆者と自分の感じ方の共通点や相違点が明確になるよう、絵に対する筆者の感じ方や評価に対して感想や考えを書かせる。 ・友達の発表を聞いて新たに気付いたことや考えたことがあればノートに追記しておくよう指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価しているかについて、文章に絵を結び付けながら読み取っている。(発表・ノート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の感じ方や評価に対する自分のとらえ方や考え方は様々であることを児童に伝えることで、もの見方や考え方を広げることの大切さについて確認できるようにする。
--	--

(イ) 授業 2 (広げる・第10時)

学 習 活 動 ・ 内 容	指導上の留意点と評価 (◎個への対応)
<p>1 前時の活動を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「『〇〇』を読む」を読み合って、絵の見方や文章表現のよさを伝え合おう。</p> </div> <p>3 同じ絵巻物を題材にして文章を書いた友達同士でグループを作り、読んだ感想を伝え合う。</p> <p><絵の見方：ピンクの付箋紙></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは人物の細かな動きや表情にまで着目しているなんて、すごいね。 ・背景に描かれているものについて、〇〇さんの解説には共感できたよ。 </div> <p><文章表現：青の付箋紙></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「『鳥獣戯画』を読む」のように、読者に問いかけるような表現を使っているのいいね。 ・〇〇さんの文章の書き方は、絵巻物の中で起こっている出来事をテレビの生中継で伝えている感じがするね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の見通しがもてるように、題材となった絵巻物やその拡大図を掲示しておく。 ・友達が、絵巻物のどの部分に着目し、それを文章に表す際にどのような表現を使っているのか、自分と比較しながら読み合い、伝え合うことを確認する。 ・絵の見方や表現の工夫について、共通点や相違点を考えながら文章を読み合えるよう、同じ絵巻物を題材にした友達同士でグループを構成する。 ・自分が選んだ文章の種類(説明文・実況中継文・物語文)の特色について、グループでの交流を通して明確にしていくよう助言する。 ・絵の見方や感じ方と、文章表現のよさという二つの視点に着目して読み合うことを意識させるために、感想を書く付箋紙は2色用意する。 ・「『鳥獣戯画』を読む」の表現のよさをまねていることも、上手に取り入れている「よさ」であることを伝える。 <p>◎感想がまとめられない児童には、「友達は、絵のどんなところに着目して、どのように感じたのでしょうか。」と問いかけるなど、対話を通して考えを引き出せるようにする。</p>

<p>4 グループ内で友達の文章と自分の文章とを比較し、絵巻物の見方の相違点や共通点、文章の工夫について感想を交流する。</p> <p>(1) 同じ題材を選んだ友達と、読み取ったことや感じたことの相違点や共通点を確認める。</p> <p>(2) 表現の工夫について確かめる。</p> <p>・この人物の心情について、〇〇さんは怒っていると感じていますが、私は顔の表情から、困っているような感じがしました。同じ絵でも見る人によって感じ方がちがうのがおもしろいです。</p> <p>(3) 全体で交流する。</p> <p>・〇〇さんが工夫したところは自分も使った表現だからとても共感できた。</p>	<p>・友達の見方のよさを再確認するために、掲示してある絵や絵巻物をもう一度じっくりと見るよう助言する。</p> <p>・友達がどのような見方・感じ方を伝えたくてどのような表現の工夫をしたのか、見方と表現の関係を大切にして話し合うよう助言する。</p> <p>・各題材ごとに、絵の見方や表現の工夫について最も参考になった文章作品を一つずつ選ぶよう指示する。</p> <p>・各題材から選ばれた文章作品を実物投影機でスクリーンに拡大表示することで、絵の見方や表現の工夫について全体で確認できるようにする。</p> <p>「『〇〇〇』を読む」を読み合い、絵の見方の良さや表現の仕方に着目して助言し合うことで、もの見方や表現方法を広げようとしている。 (文章作品、付箋紙)</p>
<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>・「『鳥獣戯画』を読む」の文体をまねしながら筆者になりきって書くことができた。</p> <p>・同じ絵巻でも、自分とちがう考えの人と読み合ったことで、新しい発見があった。</p>	<p>・「『鳥獣戯画』を読む」の学習との関連についてもまとめの中でふれられるよう助言する。特に、「絵を読む」ことについての自分の考えは、書き手になることでどのように変化したのか、前時までのノートと比較しながらまとめるよう助言する。</p>

(4) 授業の分析と考察

ア 筆者のものの見方や考え方について、文章に絵を的確に結び付けながら読み取り、自分のものの見方や考え方を広げる活動について

文章と絵を分けながら、段階的に提示していくという手立てにより、児童に「文章に絵を結び付ける」という意識をもたせることができたと考える。特に、第3時（授業1）では、文章と絵との対応関係が明確になるよう、双方を線で結び付ける活動を取り入れたことで、筆者が自らの考えを読み手に分かりやすく伝えるために、絵を効果的に用いていることに気付かせることができた。また、絵に対する筆者の感じ方や評価に対し、共通点や相違点が明確になるように比較しながら感想をまとめたことは、児童のものの見方や考え方を広げ、「書くこと」の活動にもつながったと考える。（表2）

表2 第3時の児童の感想

- 初めてこの絵を見たとき、私は「蛙が兎の耳をかんでいる。痛そうだな。」と思いました。でも、筆者は蛙や兎の種類や模様、特長などに着目していました。私はこの三つにとっても納得しました。自分では気付かなかったところに他の人が気付いて、その意見に納得するということがすごいと思いました。
- 「おかしくて、おもしろい」というよりも、こわいと思いました。みんな生き生きと躍動しているというより、「命がけのけんかをしている蛙と兎を、残りの二ひきの兎がおもしろがっている」というように思いました。筆者との感性がちがうんだなと思いました。

第6時では、それまで示されていなかった結論部分において、筆者はどのような主張をするのか、述べられてきた内容や題名を根拠にしながら予想する活動を行った。特に、題名に使われている「読む」については、「『絵を

読む』とはどういうことだろう」という、単元を貫く「核となる問い」であったため、児童は筆者の主張をまとめる中で改めてその意味について考え、次時からの「書くこと」の活動につなげることができた。（表3）

表3 第6時の児童の感想

- 筆者は、『鳥獣戯画』の大切さや、筆さばきだけで動物たちの表情などをかけるすばらしさを、言葉で表現して読者たちに読んでもらいたかったから、題名を「読む」にしたんだと思いました。
- その絵の特長や流れを読者に考えさせ、想像させ、読む力を成長させるために『鳥獣戯画』を読むという題名にしたのだと思います。
- 筆者は、ただ絵を見て「すごい！」とかいう単純な感想をもつだけでなく、その絵から様々なことを読み取って、そこから色々なことを考えたりして、絵を広いものの見方で見ていく。それは単に「見る」ではなく、「読む」という作業をして筆者はとらえたのではないか、と思う。

イ 絵から読み取ったことや感じたことが読み手に伝わるように、読みの学習で学んだ表現や構成の工夫を生かして文章を書くこと」について

第7時からは、「読むこと」の学習で身に付けた力を生かす、「書くこと」の学習活動が中心になる。児童に提示した連続式絵巻は、『鳥獣戯画 甲・乙・丙・丁巻』『信貴山縁起絵巻 飛倉の巻』『伴大納言絵詞 中巻（「子どもの喧嘩」の場面）』の6作品である。本実践において、教科書のテキストで使用されている絵を用いず、これらの作品を提示した理由は、次の3点である。

- ① 「遊び」や「喧嘩」、「不思議な出来事」など、児童にとって身近で興味・関心がもてる内容になっている。
- ② 一つの空間内に同じ人物が二度も三度も続けて描かれる「異時同図」があり、「漫画だけでなく、アニメの祖でもある」という筆者の考えに近い絵巻物である。
- ③ 『鳥獣戯画』と同様に、12世紀頃に誕生している絵巻である。

第7時には、これらの作品のレプリカや拡大図を教室全体に広げて掲示し、自由に話し合いながら見ることのできる場を設定した。児童は、絵の登場人物を指さしたり、右から左へと絵巻物を広げたりするなど、興味・関心をもちながら絵に向かっていった。その際、絵や絵巻物から「読み取った」ことを付箋紙に書いて貼り付けたり、ノートに書き留めたりする活動を併せて行ったことで、児童の「筆者（作者）になる」という意識を高めることができたと考える。



図3 絵巻物を広げた教室



図4 絵巻物を「読む」児童

第8時では、絵から読み取ったことや感じたことを書き表す際の、文章の種類を、説明文、「『鳥獣戯画』を読む」の第1段落で見られる実況中継文、そして物語文の中から選択し、さらに、参考にしようと考えた表現をワークシートにまとめる活動を行った。(表4、表5)

表4 児童が選んだ作品と文章の種類

選んだ作品	説明文	実況中継+説明文	物語文
『鳥獣戯画 甲巻』		2人	1人
『鳥獣戯画 乙巻』	2人		
『鳥獣戯画 丙巻』		2人	1人
『信貴山縁起絵巻』	5人	3人	
『伴大納言絵詞』	3人	5人	4人

表5 参考にしようと考えた表現

説明文	・もう少し〜みよう ・どうだい ・〜感じられる ・〜ちがない ・まるで〜みたいにか ・だから〜なのだ ・なぜ〜だろうか ・きっとこれは〜なのではないか
実況中継文	・はっけよい、のこった ・すかさず〜 ・おっと ・その名はなんと〜




説明文では書き出しや文末、比喩などの表現に、実況中継文では臨場感があふれるような表現に、児童はそれぞれ着目していた。また、物語文を選んだ児童は、「登場人物の設定をする」「起承転結の流れをつくる」「会話文を効果的に使う」など、5年生の学習で押さえた表現の工夫をワークシートに記入するなど、既習事項を生かそうとする姿が見られた。

資料1 児童が書いた文章①「『伴大納言絵詞』を読む」(実況中継文+説明文)

——— 絵の見方や感じ方 ~~~~~ 文章表現の工夫 〰〰〰 実況中継文

資料2 児童が書いた文章②「『信貴山縁起絵巻』を読む」(実況中継文+説明文)

りえないことに笑ったのちがいない	フアンタジーなところがある	巻の倉か空を飛ぶというありえなくて少し	がいるのたろう。よく考えてみるとこの絵	の表情を見てみよう。どうして笑っている人	ます。倉が動いたことに気づいた人々たち	めしに見てみよう	かぬけているところがあるが他にもある	いるように見える。すこく上手だけどどこ	その気品。いきいきと躍動していて動いて	る。黒紅色などを使い、のびのびとした筆使い	この絵は『信貴山縁起絵巻』の一部分であ	人も。すると、倉と鉢がい	るように声をかけたり、刀を持って出てきた	いかけた。さらに、近所の人々が、ひなんす	と、倉の主がそのことに気づき、倉と鉢を追	へ空へと上がっていくてはありませんか。お	おやおや、倉から鉢が転がって倉と鉢が空	信貴山縁起絵巻を読む
------------------	---------------	---------------------	---------------------	----------------------	---------------------	----------	--------------------	---------------------	---------------------	-----------------------	---------------------	--------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	------------

 絵の見方や感じ方
  文章表現の工夫
  実況中継文

資料3 児童が書いた文章③「『信貴山縁起絵巻』を読む」(説明文)

もう一つが事件の起こる直前のこと。絵の	には不思議でならない。	までして倉と鉢を追いつけるのだから、私	夢中になつてひたすら追っている。なぜここ	うのに笑っている。追いかからずも笑っている。	現。倉が開き、鉢が突然飛び出してきたとい	おどろくへきこしもある。一つは人々の表	まで手を抜かず、本当にイはらしい絵巻だ。	現している。倉と鉢はもちろんな人々や風景	の一場面。色かあざやかで、絵を細部まで表	のさし絵のようた。	で、倉と鉢を追っている。まるで、おとき話	ぶ。さっきまでひくりしていた人ま	ら鉢が飛び出し、倉と鉢がいっしょに空を飛	気づいたかな。いきなり倉が動き、その中か	ころはないかな。倉と鉢がういているのには	絵巻を見てみよう。どこか、変だと思つし	信貴山縁起絵巻を読む
---------------------	-------------	---------------------	----------------------	------------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------	----------------------	------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	------------

 絵の見方や感じ方
  文章表現の工夫

第10時（授業2）では、同じ絵や絵巻物を題材にした児童同士でグループを作り、お互いの文章のよさを伝えたり、助言し合ったりする活動を行った。その際、「絵の見方や感じ方」と「文章表現の工夫」を2色の付箋紙に分けて記入することで、読む観点を明確にもたせることができた。友達が絵のどの事実に着目し、どのような言葉で解釈、評価しているのか、自分の文章と比較し、共通点や相違点を明らかにする活動を通して、児童のものの見方や感じ方、言葉での表現の仕方が広がったと考える。このことから、「絵巻物から読み取ったこと、感じたことを伝える文章を書こう。」という単元を貫く言語活動を設定し、「読むこと」と「書くこと」を複合させた単元構成にしたことは、有効な手立てであったと考える。

表6 文章を読んで感想を伝え合った付箋紙の表記

絵の見方に関する感想	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵の見方で登場人物の表情にとっても注目していてよいと思った。 ○ 一枚の絵からその前にあった出来事を想像しているところがすごいと思った。 ○ けんかに参加した大人の気持ちがよく書かれていると思った。
文章表現に関する感想	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読者に語りかけるように書かれているのが工夫していると思った。 ○ 最後の「未来に残してほしい」という表現は私は思いつかなかったのですごくと思った。 ○ はじめを実況中継のように書いたり、周りの人たちのことまでくわしく書いたりしているのが工夫されていると思った。

5 研究のまとめ

- (1) 「核になる問い」を意識させ、単元を貫く言語活動を設定したことは、児童が「読むこと」と「書くこと」を関連させながらそれぞれの能力を身に付けていく上で有効であった。
- (2) 絵や絵巻物に対する見方や感じ方について、筆者や友達と比較しながら自分の考えをまとめる活動を適宜取り入れたことは、児童のものの見方や感じ方を広げる上で有効であった。

6 今後の課題

- (1) グラフや表など、絵以外の「資料」が使われている説明的な文章教材でも、文章とのつながりに着目させた言語活動が有効であるかどうか、追究していきたい。
- (2) 資料を用いた説明の仕方を、「話すこと・聞くこと」の学習でも活用していけるよう、単元を構想していきたい。

〈参考文献〉

- 文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」平成20年8月
 文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」平成22年12月
 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】」平成23年11月
 高畑勲「十二世紀のアニメーション」平成11年3月